

第16回（平成28年度）

# 九州保健福祉大学公開講座 募集要項

今年度の公開講座タイトルは、「大学からの情報発信 2016～生命医科学部から地域の方々へ～」です。九州保健福祉大学は、設立以来、地域の皆さまと共に歩み、公開講座も今年度で16年目（16回）を迎えました。この間、大学では地域交流、研究、学生教育等に鋭意取り組んでまいりました。今後も、大学内の知的財産、各学部・学科における研究内容等を地域の方々にもっと知って頂き、地域との交流を更に深めていきたいと思っております。今年度は、平成27年度に新設した「生命医科学部からの情報発信」です。

受講してみませんか？

## ～ 日 程 ～

<7月30日(土)午前10時～10時20分>

### 公開講座開講式

<7月30日(土)午前10時20分～12時>

#### ①【がんとがん幹細胞について】

講師 宮本 朋幸（生命医科学科准教授）

<8月27日(土)午前10時～12時>

#### ②【再生医療とiPS細胞について】

講師 薬師寺 宏匡（生命医科学科准教授）

<9月17日(土)午前10時～12時>

#### ③【成人T細胞白血病(ATL)-研究者人生での運命的な関わり合いについて】

講師 西片 一郎（生命医科学科教授）

<10月29日(土)午前10時～12時>

#### ④【日常生活でこんなに変わる-臨床検査と生活習慣-について】

講師 清水 慶久（生命医科学科教授）

<11月26日(土)午前10時～12時>

#### ⑤【糖と薬と病気のはなしについて】

講師 三苦 純也（生命医科学科教授）

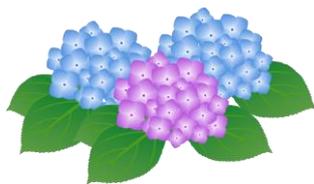
<12月17日(土)午前10時～11時30分>

#### ⑥【快眠のすすめ-良いねむりと悪いねむり-について】

講師 所司 睦文（生命医科学科教授）

<12月17日(土)午前11時30分～12時>

### 公開講座修了式



## ～講師概要および講師プロフィール～

### <7月30日（土）午前10時20分～12時>

#### 【がんとがん幹細胞について】

がんは本邦の死因の3割を占め、現在も増え続けています。と、良く耳にしますが、そもそも「がん」とはどのような病気なのでしょう。講演では「がん」の定義や原因、診断法、治療法について解説したいと思います。また、現在のがんに関係する様々な研究がされています。なかでも「がんの親玉」とされる「がん幹細胞」は、がん治療後も残存して再発の原因となったり、転移の原因となったりと、治療標的として注目されています。講演後半では「がん幹細胞」について、我々の研究成果と最新の知見を含めて紹介します。



講師 宮本 朋幸 (みやもと ともゆき)

生命医科学部生命医科学科 准教授 がん細胞研究所 研究員  
東京都出身。学生時代からがん細胞の形態や機能に興味を持ち、大学院では子宮体癌に関する研究を行った。その後「がん幹細胞」の研究を始め、現在も、臨床検査技師と細胞検査士の養成と並行して、がん幹細胞に関する研究を行っている。

### <8月27日（土）午前10時～12時>

#### 【再生医療とiPS細胞について】

2012年のノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授は、私たちの体を構成する様々な細胞になることが出来るiPS細胞（人工多能性幹細胞）を2006年に世界で始めて作成しました。その後、様々な研究が進み2014年には目の難病患者にiPS細胞から作った目の組織が移植されました。iPS細胞を用いた再生医療によって、これまでは機能を回復することが出来なかった臓器や提供者が少ない臓器の治療は大きく前進すると考えられています。この夢のような能力を持ったiPS細胞とは、いったいどのようなものなのでしょう。今回の講座ではiPS細胞の成り立ち、その問題点は何か、また現在の研究や応用はどこまで進んでいるのかについてお話させていただきます。



講師 薬師寺 宏匡 (やくしじ ひろまさ)

生命医科学部生命医科学科 准教授 がん細胞研究所 研究員  
大分県津久見市出身。琉球大学農学部農芸化学科卒業、医療機器製造企業に勤務、勤務期間中に京都大学化学研究所応用微生物学部門へ研究生として出向、倉敷芸術科学大学教員を経て現職。多能性幹細胞であるES細胞やiPS細胞に関する研究を行っています。

### <9月17日（土）午前10時～12時>

#### 【成人T細胞白血病(ATL)-研究者人生での運命的な関わり合いについて】

成人T細胞白血病リンパ腫の発見は日本の研究者による輝かしい歴史であり、その原因・ヒトT細胞白血病ウイルスをヒトがんウイルスとして定義できた世界初の出来事です。これまで、南九州に多いとされた本疾患も大都市圏への人口の移動に伴う非浸潤地域への感染者拡散が懸念されています。(1)1981～1993年：検査薬メーカーでの研究員時代 (2)1993～1993年：超高感度酵素免疫測定法の権威・故石川榮治先生師事時代 (3)2000～2015年：分子生物学的手法自由自在・森下和広先生師事時代。各時代を取り巻く社会状況と自身の研究業績を織り交ぜ、今も続く本疾患との戦いのライブ感をお伝えできればと考えています。



講師 西片 一朗 (にししかた いちろう)

生命医科学部生命医科学科 教授 生化学担当 研究テーマ：がん細胞  
特異的な分泌微粒子の網羅的解析、並びに、新規がんマーカーの探索、超高感度測定系の構築。医学博士。昭56年4月、富士レビオ(株)研究員として、臨床検査薬開発に従事。平5年4月、宮崎医科大学第一生化学講座入局。平27年3月、宮崎大学医学部機能制御学講座腫瘍生化学分野を依願退職後、同4月より現職。現在に至る。

## <10月29日（土）午前10時～12時>

### 【日常生活でこんなに変わる-臨床検査と生活習慣-について】

みなさん、病院で採血や検尿をしたことはありますか？ 実はそれが臨床検査なのです。具体的には、血液・尿・便などを採取し、分析装置を用いて数値を測定する検体検査と、直接患者さんに触れて、脳波・心電図などを測定する生理学的検査とがあります。このように臨床検査は病気の診断、治療、病気の早期発見や予防になくてはならない手段なのです。この臨床検査の測定値が変化の原因を分類すると、病気による変動（病態変動）、生理学的な現象としての変動（生理的変動）と、測定上の様々な問題で生じる変動（測定技術変動）に分けて考えることができます。今回は、健常者における生理的変動要因である性差・年齢差・地域差ならびに生活習慣に伴う変動について、面白おかしく解説させていただきます。

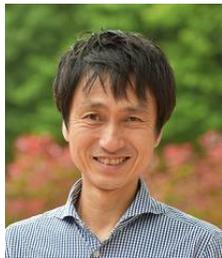


講師 清水 慶久（しみず よしひさ） 生命医科学部生命医科学科 教授  
兵庫県神戸市出身。山口大学大学院 医学系研究科 情報解析医学系 医学博士課程修了、医学博士。臨床検査技師、臨床工学技士、臨床 ME 専門認定士。山口大学卒業後、臨床検査技師として（学）兵庫医科大学に 20 年間勤務。平成 17 年、母校である山口大学医学部保健学科 検査技術科学専攻に教員として 10 年間勤務後、平成 27 年より現職。主な研究テーマは、「臨床検査分析前変動の系統的再評価とデータ・レポジトリーの構築」。平成 23 年、日本性差医学・医療学会 最優秀演題賞受賞（「健常成人における主要臨床検査の性差・年齢差・生理周期変動の分析」）。

## <11月26日（土）午前10時～12時>

### 【糖と薬と病気のはなしについて】

「糖」のつく言葉をどれくらい挙げられますか。砂糖、ブドウ糖、血糖値、糖尿病などたくさんありますね。では、糖から連想されることはどのようなことがあるのでしょうか。甘い、太る、カロリーなどでしょうか。まぎれもなく糖はエネルギー源として欠かすことのできない三大栄養素の一つです。でも、糖は栄養としての甘い食べ物だけではないのです。いろいろな種類の糖がつながることによって「糖鎖」となり、カニの甲羅になったり、わかめのぬめりになったり、こんにやくになったりします。血液型も実は糖鎖の違いです。糖尿病以外にも、糖はさまざまな病気に関連し、糖を狙ってインフルエンザを治す有名な薬もあります。この講座では、知られざる糖の側面について紹介したいと思います。



講師 三苦 純也（みとま じゅんや） 生命医科学部生命医科学科 教授  
福岡市出身。九州大学理学部生物学科卒業後、九州大学大学院理学研究科博士課程に進み博士（理学）を取得。理化学研究所研究員、米国加州サンディエゴバーナム研究所研究員、東北薬科大学講師を経たあと、平成 27 年より現職。専門は細胞生物学。さまざまな研究施設で、神経細胞、リンパ球、がん細胞などのさまざまな細胞の役割についての研究をしてきました。現在は、細胞内での不思議なタンパク質の動きに興味を持って研究を行っています。

## <12月17日（土）午前10時～11時30分>

### 【快眠のすすめ-良いねむりと悪いねむり-について】

ヒトは人生のおよそ3分の1を睡眠(眠り)に使っています。さて、心地よい睡眠とはどんな睡眠でしょうか。健常者の睡眠、年齢による睡眠変化、睡眠の質を評価できるPSG 検査、市販の家電製品・睡眠計などを概説します。そして、睡眠時無呼吸症候群や不眠症など、さまざまな睡眠障害を通して眠りについて考えてみましょう。めざせ！眠りの達人。



講師 所司 睦文（しょし ちかふみ） 生命医科学部生命医科学科 教授  
岡山県出身。岡山大学大学院保健学専攻科 検査技術科学分野博士後期課程卒業。博士(保健学)。神奈川県相模原市の北里大学病院・北里大学東病院で臨床検査技師として勤務した後、岡山県倉敷市の川崎医療短期大学 臨床検査科を経て、2015 年 4 月より現職。専門は臨床神経生理学分野(ざっくり言うと脳波または筋電図の専門家)。ちなみに、現在、関東神経生理検査技術研究会の会長を務めている。

# ＝募 集 要 項＝

平成28年度九州保健福祉大学公開講座の全体テーマは「大学からの情報発信2016～生命医科学部からの地域の方々へ～」で、全6回シリーズです。6回まとめたの募集ですが、都合のつかない講座は受講されなくても構いません。受講を希望される方は下記によりお申し込みください。

## ～応募方法～ ※いずれかの方法でお申込ください。

- ①郵 送：〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1 九州保健福祉大学  
公開講座委員会事務局宛に、往復はがきで「郵便番号・住所・  
氏名（ふりがな）・年齢・電話番号」を記入し申し込んでください。  
(復) はがきにも返信宛先を書いてください。
- ②F A X：0982-23-5530  
九州保健福祉大学 公開講座委員会事務局宛  
「郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号」をご記入の上、  
上記F A X番号に送信して下さい。
- ③E-mail：kuhw-syomu@office.jei.ac.jp  
※ 必ず件名に「公開講座申込」と記載して下さい。  
「郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号」をご記入の上、  
上記アドレスに送信して下さい。

**・ 申込締切 7月13日（水）必着でお願い致します。**

## ～受講について～

※サテライト会場（ココレッタ2階）で受講できます。(但し、7/30と12/17は除く)  
ただし、8月27日（土）第2回目からとなり、テレビ会議システムを利用した講義となります。先着20名となりますので、事前申し込みを開講日3日前までにご連絡下さい。  
ココレッタは、公開講座専用駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用頂くか、徒歩・自転車でお越しください。事前申込先は、0982-23-5555（担当：甲斐）

- ・ 定 員 定員は200名です。※高齢者（65歳以上）の方を主に対象としていますが、それ以外の年齢の方も受講できます。
- ・ 受 講 料 大人2,000円、高校生以下500円  
全6回シリーズの受講料で、受講回数に関係なく定額です。  
なお、受講料には資料代を含んでいます。  
受講料は初回の公開講座実施日（7月30日）に徴収します。
- ・ 受講連絡 申込受付後、「公開講座に関するご案内」を送付します。
- ・ 修了証書 全講座を受講された方に「修了証書」を最終日に授与します。
- ・ 応 募 先 〒882-8508 延岡市吉野町1714-1 九州保健福祉大学庶務課内  
公開講座委員会事務局 宛  
TEL 0982-23-5555（代）
- ・ 講座会場 九州保健福祉大学 F講義棟
- ・ 駐 車 場 ※駐車場がありますので、ご利用下さい。

### ～九州保健福祉大学附属図書館利用について～

本学では附属図書館を市民の方に開放しておりますのでご利用下さい。  
開館時間：平日9：00～20：00、土日祝日9：00～18：00  
(年末年始・8月中旬一定期間、学内行事により臨時閉館することもあります)